

防災講座「避難生活を学ぶ」6回目

太陽の丘町内会便り

平成27年10月17日

菅山公民館 19時～

若杉正則

本日のテーマ「避難所での避難生活」 炊き出しで「カレーライス」を食す

難解な防災用語 北関東・東北豪雨災害を顧みて

次第は

- 1、 避難スペースを作る
 - 3, 6m*3, 6mのスペースを作る
 - 1世帯4人家族の標準スペース
 - このスペースに机といすを並べる。 実感してもらう。
- 2、 アイスブレイク
今日の進行役
- 3、 炊き出し「カレーライス」を食しながら
 - 「炊き出し」についての意見交換
 - ポストイットに書き留める
 - 「避難所」での炊き出しは可能? 可能にするには?
- 4、 難解な「防災用語」災害に関わる情報
- 5、 北関東・東北豪雨災害を顧みて
- 6、 次回講座の説明 菅山ふるさと祭りの参加 閉会

- 1、 オリエンテーションで本日の次第と進行状況を説明した後、
- 2、 アイスブレイクで本日の進行役を決め
- 3、 炊き出し「カレーライス」を食しながら

本日は陽子さんが「カレーライス」を「炊き出し」として作っていただきました。これを皆でいただきながら「炊き出し」について意見交換しました。皿を汚すことがないように「ラップ」を強いてその上に盛り付けました。

「炊き出し」についての意見交換という漠然とした問いかけでしたが次の様な意見が出されました。その結果

- 1, 2丁目グループでは(ポストイットに書かれた内容をそのまま書きます。)
- 「大勢の方に行き渡る食事の内容が何か?」「衣料、薬、オムツその他必要なものの確保」
「各班ごとに人数の決めて、各班ごとにリーダーを決めて進めてゆく」「健康な人、健康でない人の確認して対応する」「リーダーを決めて役割を決める」「人数の確認して、何人もの作るのか」「被害のない人たちが持ってきてもらう(おにぎり、漬物、煮物、みそ汁)」
「炊き出し可能者の意見まとめ、リーダー 5Sにて炊き出しメニューを決めて避難所近く

で実施」「できる人が作る、炊き出しを大勢の人々にどのように配布するか問題も多い」

「リーダー、人員、いつどこで何をどのようにだれが、配膳について」「家でできる人に頼む、おにぎり、みそ汁、空揚げ、避難所で作る場合道具を用意する」「炊き出し、避難していない人が作ってきてくれる」「組織化、リーダーが必要5S いつ、どこで、なにを、どのように」「炊き出しといっても火をおこせる人がかなり少ない（経験がない）」

3、4丁目グループでは

「むすびが一番、お茶持ち寄って提供する、食器材燃料になるもの、飲料水の確保」「炊き出しをするに必要なものを集めるには？すべて寄せ集めることから始める」「家がだいじょうぶだったら、ご飯があるのならできるだけおにぎりを作って避難所に持ってゆく」「家で備蓄してある水を持ってゆく」「炊き出す前に仲間を作る」「あわただしい中で食品（食べられるもの）を用意し、火の元を作る工夫をしなければならない（家にあるものを考える、まず水かな）」「飲料水を持ちこむ、避難所にあるものが何か？によって行動することが決まる」「公民館などにあるもの（希望、期待の部分が大きい）をなるべく早い分配方法を考える」等の意見が出ました。

「炊き出し」という設問が漠然としていたためか、私が思っていたことと違った意見が出てしまいました。

「炊き出し」とは「施し」あるいは「お接待」だと思います。自分が食べるものを切り詰め分け与える「施し」と思います。従って数や量に限りがあります。当然できる人とできない人がいます。出来る場所と出来ない場所がある。地域の集会所等に避難した場合は避難者が少なく集会所備え付けの機材もあり可能かもしれません。しかし指定避難所の場合、避難者の人数も多く食材や機材を揃えるまではできません。人員の確保も必要です。

「炊き出し」とは被災していない人が被災した人たちに対して食料等を提供するものです。大規模災害が起きた場合にはすべての人が被災者となります。その中にあっても残った食料や機材を持ち寄り「炊き出し」を行うこともあります。量や数に限りがあり緊急支援物資が届くまでは飢えと寒さに耐えなくてはなりません。

指定避難所のような大勢が集まる場所での「炊き出し」は困難に思えます。緊急支援物資による食料や被災地外から支給される冷めた弁当に頼るしかありません。しかも発災数日後です。暫らくすれば「炊き出しボランティア」により暖かい食料にありつけるかもしれません。

「炊き出しボランティア」が来てくれるまでは相当の日数がかかることを覚悟しなくてはなりません。

4、難解な「防災用語」

9月29日の静岡新聞に「難解な防災用語」という記事が載っていました。近年「地球温暖化」の影響もあり、気象状況が大きく変わりました。数十年に1度しかないほどの大雨や、暴風により重大な災害の危険性が高まり、「特別警報」という気象用語がたびたび発せられるようになりました。そして「直ちに命を守る行動」を取るよう呼び掛けが行われます。

「我が家の災害リスク」を考慮した上で適切な「避難行動」をとる必要があります。

災害に係る気象情報として 注意報・警報（大雨・洪水・大雪・暴風・波浪・高潮・雷・竜巻）があります。

特別警報とは数十年に一度の強度な台風や集中豪雨により大規模な災害が予想される時、

（大雨特別警報・暴風特別警報・高潮特別警報・暴風雪特別警報・大雪特別警報等）

時系列で発表される情報

(大雨に関する気象情報⇒大雨注意報⇒大雨警報⇒大雨特別警報＝記録的短時間大雨情報⇒土砂災害警戒情報・洪水注意報・警報)

避難準備情報⇒避難勧告⇒避難指示(市町村長により発表 同時に避難所が開設されている状況)

市が避難勧告等の発令基準

避難勧告等の種類と住民の行動

垂直避難も有効です

については「防災講座1回目」を参照してください。

避難等の情報習得手段は同報無線や市のホームページ テレビ・ラジオの放送(NHK総合放送時にdボタンを押すと情報が得られる。「緊急速報メール」(携帯電話にメールで知らせる)

我が家の災害リスクを知り有効な避難方法を家族間で話し合う

5、 北関東・東北豪雨災害を顧みて

9月10日に発生した「北関東・東北豪雨災害」を顧みて、菅山で80～100ミリ超の豪雨災害が起きた場合、土砂災害・洪水災害から「自分の命・家族の命をどう守るか」想定外を想定した時、避難所(菅山小学校・菅山公民館)に避難できるか。

避難方法? 救助要請方法? を各自考えポストイットに記入、全員で共有する。

「我が家の災害リスク」を知り最悪の事態に至った場合の避難方法を意見交換する。

例えば私の家は海拔84mの位置にあり南側に緩やかな傾斜で茶畑がある。頂上部は海拔94mあり、私の家とは150m程ある。この茶畑が崩壊して土砂が流れ込んだ場合南側の部屋は土砂で埋まることになる。この場合北側の居間から道路側に避難するか、大雨が降っていて外に避難する事が難しい場合にはロフトに逃れ屋根上に脱出して救助を待つことになる。

この様に「想定外を想定した避難方法」を論じ合ってもらおう。川の近くの人には洪水災害を想定、近くに傾斜地を有する人は土砂災害を想定して皆で話し合い「我が家の最悪な場合の避難方法を話し合ってもらおう。地震災害より難しい対応を迫れる。

設問 菅山での「豪雨災害」を想定 我が家の災害リスクは? 避難方法は?

1、2丁目グループ(ポストイットに記入したものをそのまま掲載)

「自宅が使えない時自宅外で生活できる準備も必要かもしれない 車庫の利用等」

「橋がなくなった場合や、土砂災害等での通行手段を考える」

「裏の茶畑が崩れたら家の所まで来る可能性がある。道路側かロフトに逃げる」

「家の上が茶畑なので崩れたら家が壊されてしまうかもしれない。どうしましょうか?」

「基礎がしっかりやっているので2階に逃げる」「お宮か神社に逃げる」

「我が家海拔9m 萩間川、逆川＝氾濫 垂直避難12m バイパスへ20m」

「裏のミカン畑、お茶畑の崩れ 車庫に逃げる」

3、4丁目グループ

「企業のPに囲まれていると同時に家を調整池が囲んでいる、上のPが崩れた場合と水害が大きい場合は大変危険な事態になる」

「地割れ、土石流、大雨による川の氾濫、ごみで橋を防ぐ」

「家の周りはさほど心配は少ないと思うが土盛した土地でコンクリートの枠がしてあるが
さて大量の雨に我慢できるか、排水できるか」

等の意見が出されました。想定外を想定することはなかなか難しいようです。まして最悪の
事態を想定することは難しいですね。

12年前の10月に当地を襲った台風による大雨で菅ヶ谷川の至る所で川の土手が抉られました。
陰徳橋のもとに有った信号機が護岸もろとも流されました。もう少し雨が降り続
いていたら氾濫したかもしれません。過去に氾濫して当時あった橋の大部分が流されたと聞
いています。あの時土砂崩れ等もありましたが、幸いなことに人家に被害は有りませんでした。
「地球温暖化」が騒がれている昨今、当地菅山にも「豪雨災害」が起きないとも限りませ
ん。夜半の豪雨、停電等で情報の入手が難しい場合もあります。夜中の避難は非常に危険
です。早めに避難するか、垂直避難も有効です。非常持ち出し品は「懐中電灯・雨具・履物」
を忘れずに。履物は水の中でも脱げることがないよう編み上げのスニーカーが良いでしょう。

6、菅山ふるさと祭りに出展

「非常持ち出し品と災害時のトイレ」というテーマで出展しました。

4年前災害ボランティアとして行った岩手県山田町の被害状況、避難所の風景、仮設住宅の
写真と間取り図を展示しました。4年前の東日本大震災を忘れてほしくないと思います。



菅山ふるさと祭り展示品

「非常持ち出し品」は順位をつけて展示しました。

順位1として「懐中電灯・雨具・履物」

順位2として「非常食（直ぐに食べられるもの）・飲料水 携帯トイレ・トイレットペー
パー・トイレカバー（女性がトイレをするとき全身を覆い体を隠すものです）」

水・食料持つならトイレ忘れずに

順位3として上着・ズボン・防寒着・靴下・下着・パンツ・Tシャツ・長袖シャツ

順位4として常備薬・救急用品・保険証（写し）お薬手帳・タオル・清拭タオル・歯ブラシ・
マスク

順位5としてテント・ロープ・ブルーシート・寝袋・マット・使い捨てカイロ

順位6としてラジオ（防災ラジオ）・予備電池・携帯コンロ・ボンベ・コップ・ライター

ー・ビニール袋・手袋・新聞紙・ナイフ・はさみ・のこぎり・携帯トイレブース・尿ボトル・防虫グッズ・蚊取り線香・ヘルメットとこれらを収納するザックです。

表にすると以下のようになります。(若杉が持ち出す非常用品です)

	品目	
1	懐中電灯・雨具・履物	1位
2	非常食(直ぐに食べられるもの)	2位
3	携帯トイレ・トイレットペーパー・トイレカバー(自転車用カバー)	2位
4	上着・ズボン・防寒着・靴下	3位
5	下着・パンツ・Tシャツ・長袖シャツ	3位
6	常備薬・救急用品・保険証(写し)お薬手帳	4位
7	タオル・清拭タオル・歯ブラシ・マスク	4位
8	テント・ロープ・ブルーシート	5位
9	寝袋・マット・使い捨てカイロ	5位
10	ラジオ(防災ラジオ)・予備電池	6位
11	携帯コンロ・ボンベ・コップ・ライター	6位
12	ビニール袋・手袋・新聞紙	6位
13	ナイフ・はさみ・のこぎり	6位
14	携帯トイレブース・尿ボトル・タンク	6位
15	防虫グッズ・蚊取り線香	6位
	ザック・ヘルメット	

これ等はあくまでも若杉の試案です。それぞれの家庭により非常持ち出し品は異なります。各家庭にあった「非常持ち出し品」を揃えて下さい。

乳幼児や要援護者がいる場合はベビー用品や介護用品も必要です。

ベビー用品＝ミルク・哺乳瓶・離乳食・オムツ・清拭布・毛布・肌着・ガーゼ・着替え
介護用品＝車椅子・オムツ・簡易トイレ・清拭布・毛布・着替え

次に避難時にはトイレ問題を重要視した「非常時トイレセット」を紹介します。

15個	密閉バケツ	1個
	携帯トイレ	10枚
	男子用トイレ袋	2枚
	トイレットペーパー	1個
	自転車用カバー	1枚
	消臭剤	1本
	飲料水500ml	2本
	非常食(おかゆ4個・ソイジョイ12個)	
	ゴミ袋	1枚
	発電電灯ラジオ(防災ラジオ)	1個
	ヘッドランプ	1個
	雨具	1着
	防水シート	1枚
	レスキューシート	2枚

このセットは1名分ですが2人以上でも分け合えば使用できます。2名分のセットにする時は雨具・ヘッドランプを追加してください。消臭剤・発電電灯ラジオは除いても良いです。
11月6日（金）の区長・自主防災会の研修会「災害時のトイレ対策について」の講演会で紹介と提案説明をさせていただきました。

7、 来月の講座説明と 閉会

11月21日（土）19時～

内容「避難生活と災害ボランティア」

牧之原市災害ボランティアコーディネーターとの協働

大規模災害が発生した場合、復旧・復興には災害ボランティアの力は絶大です。

その仕組みを例題を持って体験していただきます。